

□ □ □ □ □ □ □ □ □ □
公益社団法人 福岡県人権研究所
“りべらしおん” No. 39 (2023/3/8)
□ □ □ □ □ □ □ □ □ □

I <報告> 「大阪同和・人権問題企業連絡会第8グループ研修会」に参加して（井上法久）

3月7日（火）13:00～16:00、標記の研修会を行いました。竹森健二郎さんを講師とする講話とフィールドワークで、大阪の参加者は10名でした。会員の橋本正照さんも参加しました。

○講話「部落差別の歴史から学ぶー全国水平社創立100年を迎えてー」

これまでの自分たちは、近代の部落問題解決に向けた取り組みについて、水平社運動を中心に理解してきました。部落改善運動・事業については、否定的に、融和運動については、反水平社的に捉えていたことが多いように思います。今回の講話では、第一次世界大戦後の民力涵養運動の中で、被差別部落の低位性を見出すことや差別を社会問題とする考えが生じてきたこと、また、米騒動以降の「なみ生」（和歌山）の投書「俺等は穢多だ、特殊民だ」というアイデンティティにみられる被差別民の変化とともに、水平社創立以前における融和運動・改善事業との対立が取り上げられました。第2回同情融和大会の国会の請願（1919年）では「軍隊内における差別待遇の廃止」等が採択されました。内務省に5万円の部落改善費が予算化され、部落改善費が各府・県で計上されます。水平社創立後は、水平社運動や内部の動きと併せて融和運動との対立が説明されました。戦時体制の中で水平社は自然消滅し、融和運動も国家統制の中で思うように進みませんでした。戦後、全国水平社は部落解放全国委員会として発足し、今日の部落解放運動に引き継がれています。

○フィールドワーク「解放の父松本治一郎のゆかりの地を訪ねる」

3月はじめなのに気温20度のポカポカ陽気の中、福岡連隊事件による松本治一郎の下獄に際し、別れを惜しむ多くの人たちが集まった東公園・亀山上皇銅像前から、馬出そして五人衆合葬の墓まで気分良く歩くことができました。これまで何度も歩きましたが、講話を聞くだけでなく、また、書籍の誌上で読むだけではなく、現地を実際に自分の足で歩き、自分の目で見ることは違います。繰り返し訪れることにより、頭の中だけでの理解ではなく、心での理解が進むように感じます。往事のこと、そして今の人々の息吹も感じながら歩きました。これからもさまざまな「現地」を歩きたいと思います。

II <お知らせ>

(1) 第8回啓発部会

日時：3月25日（土）14:00～

場所：田川市民会館

内容：マジョリティの特権とマイクロアグレッションについて

(2) 「第31回三・一文化祭」（「三・一文化祭実行委員会主催」）開催

多文化交流マダン（広場）三・一文化祭が4年ぶりに開催されます。会場は福岡市立香椎浜小学校です。お間違えのないようにお出かけください。

日時：3月26日（日）11時開場 12時～16時

場所：福岡市立香椎浜小学校 体育館

内容：楽器体験ワークショップ、民俗あそび体験（ボナ・皿回し）、ソゴチュム（小鼓舞）など

* 「食文化コーナー」はありません。

* 詳細は研究所フェイスブック参照

問合せ：事務局長 朴康秀（パク・カンス）さん TEL/FAX 092-571-1131

Eメール festa191931@yahoo.co.jp

< * 研究所主催の各部会・講座の開催等の詳細については、ホームページをご覧ください。 >

☆ホームページ

<https://www.f-jinken.com>

〔人権研究所の出版物〕

新谷恭明『校則なんて大嫌い！ー学校文化史のおきみやげー』

久米祐子『子どもから障害児を「分けない教育」の戦後史インクルーシブ教育とはー』

木村政伸『教室の灯は希望の灯 自主夜間中学「福岡・よみかき教室」の二五年 』

関 儀久『感染症と部落問題 近代都市のコレラ体験』

森山沾一・和智俊幸・横田司・坂田美穂『殉義の星と輝かん～百年生きる「解放歌」と柴田啓蔵』

部落史研究部会/史・資料プロジェクト『2020/2021 史・資料プロジェクト報告集「身分」を考える』

木村かよ子「ポストカード」5種5枚セット 500円

☆お求めは

<https://books-f-jinken.raku-uru.jp/>

☆ニュースのバックナンバーは下記研究所公式サイトでご覧いただけます。

<http://www.f-jinken.com/news/iberacion.html>

◇みなさんの投稿お待ちしております。

ニュース担当：峰

info@f-jinken.com（登録解除はこちらから）

【公益社団法人福岡県人権研究所は、会員の会費で運営されています。】